

## こいのぼりが地域の交流に一役！

こどもの日を前に、杉並区清水 3 丁目の妙正寺公園のすぐ西側に架かる落合橋付近に、地域の子もたちの健やかな成長を願って、大小 50 あまりのこいのぼりが飾られています。また、30 日の午前中、井草 2 丁目の高齢者のデイサービス施設「八成ふれあいの家」では、地域のお年寄りと子どもやその母親たちとともに、こどもの日のイベントを楽しみました。

こいのぼりは、昨今の都会の住宅事情では、本物を空高く泳がせることは困難になっています。ただし、子どもたちの健やかな成長を願う気持ちは、今も昔もかわりません。そこで、杉並区は 10 年ほど前から、妙正寺川の落合橋付近にこいのぼりを飾っています。この場所は、区内在住でノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊さんの名を冠した小柴ロードとも呼ばれています。道を挟んで区立妙正寺公園があり、川の水源地となっている妙正寺池なども一緒に見ることができる区内では有名な散策コースともなっています。今年も、大小 50 あまりのこいのぼりを見ることができ、こいのぼりをきっかけに会話が生まれることもしばしばで、地域の交流に一役買っています。展示は、5 月 7 日まで。



また、井草 2 丁目の高齢者のデイサービス施設「八成ふれあいの家」では、施設の利用者 34 名と近くの保育施設に通う親子連れ 15 組が、こどもの日を前に、一緒に「こいのぼり」などの童謡を歌うなど、笑顔の交流会が行われました。この交流会を企画したのは、乳幼児の預かり保育を行っている保育所「ひととき保育八成」(運営:NPO 法人八成グループ)です。この団体は、世代を超えた地域の交流を深めようと、盆踊りや中学生による職場体験の実施など、年間を通して様々なイベントを行っています。そのひとつとして、一昨年からはじめたのが、このこどもの日のイベントです。



今日の交流会では、最高齢が 97 歳の女性から、一番年齢が若いのは 6 か月の男の子までが参加しました。15 組の親子連れと 34 人の施設利用者が、短い時間でしたが楽しく過ごすことができました。施設利用者の女性は、「徐々に赤ちゃんを胸に抱きました。心安らかな気持ちになりました。また、子どもたちの元気な声を聞くと、自分も元気をもらえたような気がします。」と話していました。

〈報道機関問い合わせ先〉

ひととき保育八成 03 - 6915 - 0233